

3)初発の5大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数【2017年度】

2017年度<2017年4月1日～2018年3月31日退院患者>

部位	初発					再発
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明	
胃癌	17	-	10	-	-	-
大腸癌	12	28	34	32	14	12
乳癌	-	-	-	-	-	-
肺癌	-	-	-	-	-	-
肝癌	-	-	-	-	-	-

<集計方法と定義>

- ◆対象患者は一般病棟に1回以上入院した、医科レセプトのみの患者です。
- ◆入院後24時間以内に死亡した患者さんは対象外です。
- ◆症例数が10未満の数値の場合は、-（ハイフン）で表示しています。
- ◆一連の治療機関に入退院を繰り返すなどを行った場合は、同一患者に入退院を繰り返した回数分をかけた延患者とします。
- ◆病期分類は、UICC TNM分類の病期(Stage)に基づいたものです。
- ◆Stageが「0」のものは対象外としています。

【解説】

がんの病期分類は、がんがどれくらい進行しているのかという病期・進行度を意味し、Stage0からStageIVまであり、StageIVは最も進行しているがんです。

【大腸癌】昨年度に引き続き、当院の悪性腫瘍の中で最も症例数が多いのは、大腸癌です。内視鏡的治療の適応にならない症例に対し、腫瘍が特に大きい場合や穿孔がある場合などを除き、腹腔鏡補助下手術の適応としています。また、2017年度より、入院患者さんの便潜血反応検査を推進し、大腸癌の早期発見を目指しています。

【胃癌】胃癌の主な治療法には内視鏡的治療、腹腔鏡補助下手術、開腹手術、化学療法(抗がん剤)、放射線療法などがありますが、その病期に応じた治療を選択することが大切です。当院では日本胃癌学会の胃癌治療ガイドラインに則り、早期胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術を行っています。比較的小さな胃癌でリンパ節転移がないか軽度の方、つまり病期IA(がんが粘膜内あるいは粘膜下組織にとどまり、リンパ節転移がない)で内視鏡的治療の対象にならない方や、病期IB(癌が粘膜内あるいは粘膜下組織にとどまり、すぐ近くだけのリンパ節転移がある、あるいは癌が固有筋層にとどまり、リンパ節転移がない)の方が対象になります。

【乳癌】症例数が10件未満のため、表示されませんが、乳癌においても手術や抗がん剤、ホルモン療法などを患者さんの状態や意向に合わせて実施しております。

【肺癌】各Stageが10症例未満のため「-」表示としています。当院では2018年度に呼吸器外科医を迎え、精査から手術を含めた加療、その後のフォローまで一括して診療します。手術は胸腔内視鏡を用いた手術を中心にを行います。胸腔内視鏡手術は傷が小さく低侵襲であり、ご高齢やいろいろな持病・合併症をお持ちの方の身体的負担を減らし、回復が早く、痛みが少ない、傷が目立たないなど若い方にも十分なメリットがあります。

【肝癌】各Stageが10症例未満のため「-」表示としています。患者さんがご高齢などで積極的な治療を望まない場合もありますが、治療が必要な場合は、治療が可能な施設へご紹介させていただきます。

近年では、患者さん自ら人間ドックや検診を受けることにより早期発見されることも多く、内視鏡的切除など身体的負担が少ない手術を受けることが可能です。

当院では、手術だけでなく、抗がん剤治療も行っています。血液疾患専門医が入職し、悪性リンパ腫や白血病などの疾患にも対応しています。

質の高いチーム医療で患者様個々の状況や考え方等に十分配慮した最適・最善の医療とケアを提供できるよう努めています。